

「フォレストパークあだたら」森林環境教育ガイド

利用にあたって

ふくしま県民の森「フォレストパークあだたら」は、自然との共生に関する理解の向上を目的として、福島県が設置している施設です。

フォレストパークあだたらには、小学生や幼稚園児等が、森林や自然について学ぶ施設や展示、体験できる森林があります。また、中学生や高等生にも対応したプログラムなども用意しています。

このガイドブックは、フォレストパークあだたらには、どのような森林や施設があり、どのような活動ができるのかを解説し、学校教育における森林環境教育や野外活動を支援するものです。

是非とも、ご一読いただき、参考としていただければ幸いです。

内容についての問い合わせ先

ふくしま県民の森「フォレストパークあだたら」

TEL 0243-48-2040

FAX 0243-68-2060

E-mail kouryu@fpadatara.com

○ フォレストパークあだたらでの森林環境教育の実践までの流れ

1 プランを作る

森林環境教育を実施するプランを作ります。

- ・日時 ・人数 ・もりの案内人への依頼（フォレストパークで紹介もできます）
- ・何をするか

- 毎年お願いしている「もりの案内人」がいれば、その方と打合せをして、日時や何をするかを決めます。
- 決まった「もりの案内人」がいない場合には、フォレストパークあだたらで紹介もできますので、ご連絡ください。依頼される場合は、選定までに時間を要しますので、1ヶ月前までにお願ひします。

2 施設の予約

施設の予約は、実施日の1年前から取れますので、決まりましたらお早めにご連絡をお願いします。予約の際にお聞きするのは、次の項目です。

- ・実施日 ・時間（到着～出発） ・利用者名（学校名、学年）
- ・担当者 ・電話番号 ・人数（子ども、幼児、大人（高校生以上））
- ・どの施設か（森林学習館のホール、木工室、森林館、広場、キャンプサイト、
キャンプファイヤー場、園地、散策路など）
- ・下見をするかどうか（必須ではありません） ・下見の日時

3 森林環境教育施設の利用時期、利用時間、利用料金

(1) 利用時期

基本的には通年、使用可能です。なお、森林学習館側にあるユースキャンプ場に宿泊する場合には、4月21日～11月5日までになります。

(2) 利用時間

日帰り利用：9：00～16：00（宿泊利用：13：00～翌日11：00）

(3) 利用料金

日帰り利用：無料（宿泊利用：小中学生130円/人、おとな260円/人）

- オートキャンプ場区域施設（レクチャーホール、コテージ、オートキャンプサイト）の利用料金は、上記の料金とは異なりますので、ホームページでご確認ください。なお、学校教育でオートキャンプ場区域施設を利用する場合には、学校教育割引申請書を提出することで、通常料金の半額で利用できます。

4 施設利用申込書を送付

次ページの施設利用申込書をご記入いただき、フォレストパークあだたらまでお送りください。遅くとも、来場時に持ってきてください。

- 様式は、フォレストパークあだたらホームページの、「■ユースキャンプ場をご利用の方へ 申請書のダウンロードはこちら >> 【森林学習施設使用承認申請書】」から入手できます。
- 送り先 FAX 0243-68-2060
E-Mail kouryu@fpadatara.com

5 受付

チェックイン及びチェックアウトは、フォレストパークあだたらのビジターセンター受付カウンターで行いますので、利用当日は受付カウンターにおいでください。

なお、もりの案内人が受付をする場合もありますので、打合せをお願いします。

6 留意事項

- (1) 指導する「もりの案内人」との打ち合わせが重要です。もりの案内人は、施設や森林などを熟知しており、全体をコーディネートしてくれます。
- (2) 決まったもりの案内人がいない場合には、フォレストパークあだたらにご相談ください。もりの案内人を紹介します。
なお、もりの案内に、交通費と謝礼をお支払いください。金額については、もりの案内人と直接相談してください。
- (3) 森林の中には、トゲやカブレを起こす木、アブや蚊などの昆虫がいますので、服装は長袖、長ズボンで、手袋などをお持ちください。

ふくしま県民の森(森林学習施設)使用承認申請書

年 月 日()

公益財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団 理事長 様

住 所

氏名(団体名等)

電話番号

下記のとおりふくしま県民の森の使用を承認してください。

記

利用目的	キャンプ ・ 野外炊飯 ・ 自然観察 ・ OL ・ 遠足 ・ 見学、研修 ・ スポーツ ・ スノーシュー ・ その他 ()			
利用施設	ユースキャンプ場 ・ キャンプファイア場 ・ 広場 ・ 森林館 ・ 学習館(ホール) 学習館(木工室) ・ 園地 ・ 散策路 ・ 炭焼き体験施設 ・ 森の学び舎 その他 ()			
利用日時	年 月 日 時 分から 月 日 時 分まで (泊日)			
利用人数	人 (大人 人 ・ 小人 人)			
利用回数	初回 ・ 回			
料金内訳	単 価	利用人数	泊数・数	計
使用料金	大人	260円	人	泊 ※ 円
	小人	130円	人	泊 ※ 円
薪	バタ薪	770円		束 ※ 円
	ログ薪	658円		束 ※ 円
			合 計	※ 円

注) 小人とは小学生と中学生です。

使用料は宿泊を伴うキャンプ時のみ必要です。

単価は消費税(10%)を含んでいます。

※印欄は記入しないでください。

プリント番号	※	領収書番号	※	受理者	※
--------	---	-------	---	-----	---

I ふくしま県民の森「フォレストパークあだたら」とは

ふくしま県民の森は、安達太良山麓に明治百年記念事業（昭和44年度～48年度）の一環として、昭和47年10月に福島県の施設として開園しました。

その後、アウトドア志向の高まりなどから、平成10年7月にオートキャンプ場をオープンし、愛称を「フォレストパークあだたら」としました。

今日まで、森林学習施設での小学生の森林観察や木工体験などをはじめ県民に広く利用されるとともに、県内外の方々にオートキャンプ場が利用されています。

また、平成30年6月には全国植樹祭サテライト会場として、令和元年10月には第2回ふくしま植樹祭の会場として植樹が行われました。

所在地 福島県安達郡大玉村玉井字長久保地内ほか

面積 総面積 91.5 ha (森林学習区域 52.1 ha、オートキャンプ場区域 39.4 ha)



上空から見た「フォレストパークあだたら」

II 施設のご案内

1 森林館

森林館は、フォレストパークあだたらにおいて森林環境教育を行う中心的な施設で、二酸化炭素の吸収や水源のかん養、洪水の防止、表面浸食の防止などの森林の役割、地球温暖化と森林との関係などのパネルが展示されています。

また、福島県の森林の特徴や様々な樹木、森林にすむ野生動物についても展示しています。

森林館内には、男子用、女子用、多目的トイレが設置されています。森林館の前は園地になっており、オープニングミーティングなどに活用することができます。



森林館の外観



森林館内の展示施設



森林館内での説明風景

【森林館内のパネル紹介】

(1) いろいろな森林のはたらき

森林が持つ二酸化炭素吸収、表層崩壊防止、保健・レクリエーション、洪水緩和、化石燃料代替、水質浄化、表面浸食防止、水資源貯留などの機能を紹介しています。



[「いろいろな森林のはたらき」の【関連情報】へ](#) 

(2) 森と川と海のつながり

森林に降った雨は、地中を通り、川となって、私たちの暮らしに使われ、再び川にもどり海へと注ぎます。海の水は、蒸発して雨となり、再び雨となって森林に降り注ぎます。



[「森と川と海のつながり」の【関連情報】へ](#) 

(3) 地球の温暖化

二酸化炭素などの温室効果ガスの影響で、地球表面の温度がどんどん上昇し、問題となっています。原因は、石炭や石油などをエネルギーとして使っているため、地中に閉じ込められていた炭素が二酸化炭素となって大気中に放出されているからです。

ち きゅう おん たん か 地球の温暖化

いま、わたしたちが暮らしている地球表面の温度がどんどん上昇し、問題になっています。地球環境が大きく変わり、わたしたちの暮らしだけでなく、地球上のあらゆる動植物にさまざまな悪影響が出てくるからです。

温暖化のしくみ

地球を取り巻く大気中の、二酸化炭素など一部の気体は、地球表面の熱を宇宙に逃さず、気温を一定に保つ働きがあり、「温室効果ガス」といわれます。ところがいま、二酸化炭素が増えすぎて気温が上昇しているのです。

温室効果ガス

温室効果ガス

もしも、温室効果ガスがなければ、地球表面の温度は、氷点下18度以下に下がってしまいます。

温室効果ガスは太陽の熱を吸収し、またそれを地球に放射することで、地球を暖めます。

なぜ温室効果ガスが増えたのか？

原因はわたしたち人間にあります。石油や石炭などをエネルギーとして、あまりにも急激に使ったために、化石燃料として地中に閉じこめられていた炭素が二酸化炭素となって大気中に大放出されたからです。また、二酸化炭素の吸収源である森林の減少も温暖化に拍車をかけています。

自動車

森林火災

大気中の二酸化炭素濃度は、産業革命後の1950年代で急激に増えたと見られ、濃度が二酸化炭素の増加傾向を示しています。

世界の年平均気温の平年差 (1880年～2011年)

地球全体の平均気温が上昇していることがわかります。

緑がアフリカ、赤が北極圏、黒い線は世界の平均の年平均気温、灰色の線は気候変動を示します。

日本の年平均気温の平年差 (1880年～2011年)

日本の平均気温は、この100年間で1.0°C上昇しています。とくに、1980年代からの上昇が著しくなっています。

緑がアフリカ、赤が北極圏、黒い線は世界の平均の年平均気温、灰色の線は日本の年平均気温を示します。

(4) 二酸化炭素をたくわえる森林

森林が、光合成により大気中の二酸化炭素を吸収することで、温室効果ガスを減らすことになります。また、長い間、木材の中に炭素をたくわえることができます。



[「二酸化炭素をたくわえる森林」の【関連情報】へ](#)

(5) 表情豊かな福島県の森林

ゆた ふくしま けん もり 表情豊かな福島県の森林

福島県では、さまざまな姿の森林を見ることができます。
南北に長い日本列島にあって、森林の様子が、南のタイプから北のタイプに移り変わるところだからです。

全国3番目に広い福島県では、太平洋側の低地から西側に向かって山地が広がり、標高による森林の変化も見ることができます。また、阿武隈高地と奥羽山脈が南北に連なり、会津、中通り、浜通りの3つの地方に分かれ、それぞれが特徴的な気候風土となっています。

▲ 標高分布
標高が100m高くなると、気温が約0.6℃下がります。このため高い山では標高によって森林の様子が変わります。これを森林の垂直分布といいます。

▲ 水平分布
南から北に行くにつれて、寒くなります。森林もそれに合わせて様子が変わります。これを森林の水平分布といいます。白茅では会津側から会津側までの森林を見ることができます。

会津地方 会津代官 奥羽山脈 阿武隈高地 浜通り地方

会津地方の山脈では、森林が暖かい気候に育ちます。
(会津側—常緑林)

会津山脈の山頂ではブナやトドマシの森(常緑林)が広がります。

中通り地方の山では、ツナギなどの常緑林が見られます。

浜通りでは、お寺や神社などの周囲にツナギの森(常緑林)が広がっています。

[「表情豊かな福島県の森林」の【関連情報】へ](#)

(6) さまざまな木 (森の特産品)



◎広葉樹

ケヤキ (ニレ科)、ミズナラ (ブナ科)、コナラ (ブナ科)、クヌギ (ブナ科)、ブナ (ブナ科)、クリ (ブナ科)、ミズキ (ミズキ科)、ホオノキ (モクレン科)、カツラ (カツラ科)、エゴノキ (エゴノキ科)、サクラ (バラ科)、モモ (バラ科)、ヤナギ (ヤナギ科)

◎針葉樹

スギ (ヒノキ科)、ヒノキ (ヒノキ科)、アカマツ (マツ科)、クロマツ (マツ科)、カラマツ (マツ科)、モミ (マツ科)

[「さまざまな木 \(森の特産品\)」の【関連情報】へ👉](#)

(7) 森の生きもの

フォレストパークあだたらに生息している野生動物や福島県に来る水鳥のはく製を展示しています。



○展示されている生き物たち

ニホンカモシカ (ウシ科)、ホンドタヌキ (イヌ科)、ホンドキツネ (イヌ科)、キジ (キジ科)、フクロウ (フクロウ科)、モモンガ (リス科)、テン (イタチ科)、コハクチョウ (カモ科)、ツキノワグマ (クマ科)、イノシシ (イノシシ科)

[「森のいきもの」の【関連情報】へ](#) 

(8) 森林（もり）と生き物たちのつながり

森林（もり）には、たくさんの生き物がすんでいます。森林の中には、木の葉や木の実がたくさんあり、これを食べる虫やリスなど小動物、鳥がいて、これらを食べるタカやフクロウ、キツネなどの動物がいます。

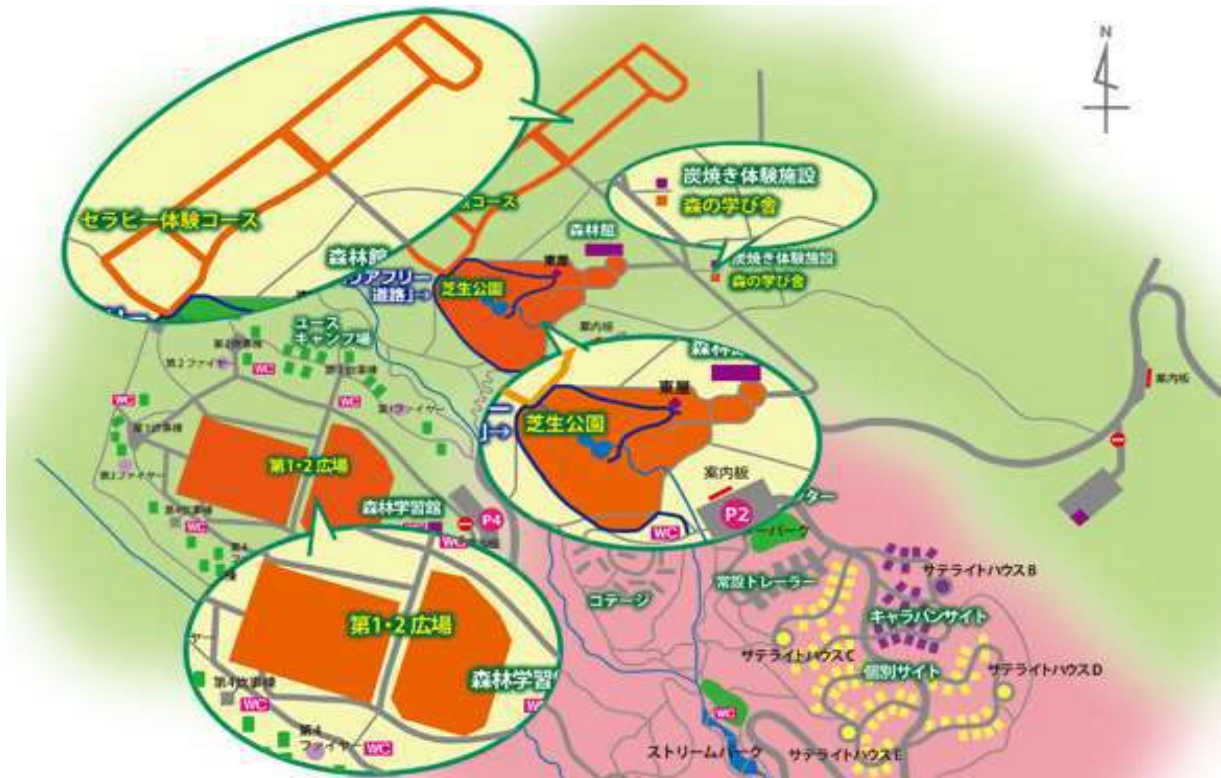
土の中には、ミミズや微生物がたくさんいて、落ち葉や動物の死がいなどを食べて、土に還していきます。森林の中では、生き物たちが関わって生きていて、森林生態系を作っています。

これらの森林生態系のエネルギー源が、太陽の光であり、森林が食べ物を作る工場のような役割を果たしています。

土の中に住むミミズや微生物が、落ち葉や動物の死がいなどを土に還してくれるので、森林の中がきれいに保たれています。



2 森林館周辺の森林、緑地、遊歩道など



(1) 森林館周辺の広場・森林

森林において、樹木や草花などを観察します。また、木の伐採体験や森林の中にあるクイズを解いていくオリエンテーション、野生動物の足あとさがしなどもできます。もりの案内人が説明・案内します。





森の中でオリエンテーションの説明



問題を探して出発



グループで問題を解いていく



問題が書かれた看板



走って問題を探す



リスが食べたマツボックリ



もりの案内人が
樹木などを説明

森林内で木を切る体験



年輪を数えています

(2) 芝生公園

人工池と芝生の広場で、藤棚や四阿があり、周辺がアカマツや広葉樹で囲われた公園です。人工池には、アメンボやゲンゴロウなどの水生動物がすみ、6月にはモリアオガエルが池の上の木に産卵します。



芝生公園の人工池



人工池の周りを散策

少し黄色い泡状に見えるのが
モリアオガエルの卵（泡巢）



(3) 第69回全国植樹祭サテライト会場（少花粉スギ植栽）

平成30年6月に、福島県において第69回全国植樹祭が開催されました。その際に、フォレストパークあだたらは、サテライト会場として少花粉スギの苗2000本を植栽しました。現在、順調に成長しています。



少花粉スギが植えられた第69回全国植樹祭会場



2000本の少花粉スギが植えられた



少花粉スギ（6年生）

[「全国植樹祭サテライト会場（少花粉スギ植栽）」の【関連情報】へ](#) 

(4) ふくしま植樹祭植栽会場（広葉樹を植栽）

第69回全国植樹祭の理念を引き継ぎ、平成30年度からふくしま植樹祭が開催されています。第2回ふくしま植樹祭が、ふくしま県民の森で令和元年10月に行われ、広葉樹を植栽しました。



第2回ふくしま植樹祭で植栽した広葉樹（令和5年）

[「ふくしま植樹祭植栽会場（広葉樹を植栽）」の【関連情報】へ👉](#)

(5) JR貨物グループの森林づくり

令和5年度から5年間にわたり広葉樹を中心とした森林づくりを行っています。

ふくしま県民の森は、アカマツの生育に適しており、美しいアカマツ林が多くあります。一方では、変化が少ないことから、森林環境学習においていろいろな森林を見ることができるよう、第2回ふくしま植樹祭の植栽地と一体的に、広葉樹中心の森林づくりを目指しています。

5年間にわたり森づくりを行うことで、少しずつ変化していく森林の様子を見ることができようとしています。



[「JR貨物グループの森林づくり」の【関連情報】へ](#) 

3 森林学習館

森林環境教育や森林・林業に関する研修会などで、幅広く利用されています。最大100人規模のホールと木工クラフトを行う木工室、トイレ、手洗い場があります。

(1) 外観



施設概要

- 鉄骨鉄筋コンクリート造 450㎡
- ホール（最大：イスのみ100人、スクール形式80人）
- 木工室（最大：48人）
- トイレ
- 手洗い場
- 駐車場 第4駐車場：乗用車30台（大型バス5台）
第5駐車場：乗用車30台（大型バス4台）

【留意点】

- 森林学習館は、もりの案内人がいると施設をスムーズに使用できます。
- なお、利用には予約が必要です。フォレストパークあだたらに、電話でお問い合わせください。

(2) ホール (225㎡、机 作業台、イス 脚)

オープニングミーティングや研修会、会議、屋内での実技などで利用されています。雨天のため屋外での散策などが出来ない場合の研修場所として、または、昼食を食べる場所としての利用も可能です。



○ 研修状況



もりの案内人から説明を聞いたり、研修の始まりにオープニングミーティングを行ったりします。



救急救命の研修を行っています。

○ 木工室が使用されている場合は、ホールで木工クラフトをすることも可能です。なお、木工室が空いている場合は、できるだけ木工室をお使いいただいています。

(3) 木工室 (100㎡、机6台、イス48脚)

木工細工を行うための、机やイス、材料、道具がそろっています。もりの案内人に教えていただきながら、いろいろや木工クラフトを行うことができます。



○ 作品集 (小学生の作品です)



- 作るものごとに、パーツが用意されていて、これを木工用ボンドで接着して作品を作っていきます。同じパーツでも、作る子どもによって、出来上がる姿が違うところが面白いところです。ノコギリやナイフを使って、自分でパーツを作ることもできます。
- できたものに、マジックなどで色を付けることもできます。
- もりの案内人によって、レパートリーが異なりますので、もりの案内人と御相談ください。



- 木の枝を使って、屋外で木工クラフトを行うことも可能です。

4 森林学習館周辺の広場、森林、散策路

森林学習館の周辺には、第1広場、第2広場、ユースキャンプ場、キャンプファイヤー場、炊事棟、遊歩道、小川などがあり、屋外のトイレも整備されています。

【施設概要】

○第1広場 面積10, 100㎡

○第2広場 面積10, 300㎡

広場にはサクラが植栽されています。特に、第1広場には京都にある醍醐寺(世界文化遺産)のサクラや三春滝桜のクローン苗が植えられています。

広場は、様々な催しなどに使用できます。

○ユースキャンプ場 24サイト ○炊事棟 4棟 ○トイレ 5棟

ユースキャンプ(車の乗り入れはできません)が24サイトあり、静かな環境で団体を中心としてキャンプが行われています。もちろん、個人での利用も可能です。

ユースキャンプ場で、野外炊飯(ご飯を炊いたり、いも煮など)ができます。炊事棟(かまど、水道、流し台)がありますので、カレーなどを調理することが可能です。

トイレも5カ所にあります。

○キャンプファイヤー場 4カ所

キャンプファイヤーを行うファイヤー場が4カ所あります。団体が夜にキャンプファイヤーを行っています。燃やす薪は、持ち込みが基本ですが、手配することも可能です。

○ 散策路

第1広場、第2広場やユースキャンプ場の周辺に散策路があります。森林館方面とも林間の散策路でつながっていて、小川を越えていくコースです。

○ 小川

森林学習館エリアと森林館エリアの間には小川が流れていて、夏は木陰で涼しい環境です。小川の生き物観察などを行っています。春には、ミズバショウなども見られます。



炊事棟



屋外トイレ



ユースキャンプサイト



第1 広場



小川での生き物さがし